



〈自己完結社会〉の成立

環境哲学と現代人間学の
ための思想的試み

（下巻）

上柿 崇英 著

〈有限の生〉とともに生きるということ。

人は「意のままにならない生」の哀苦や残酷さを前に、
それでも〈世界了解〉を果たすべく格闘し続ける。
そこにある人間の〈美〉と〈救い〉の原理を探る。

農林統計出版



9784897324449



1923033036008

ISBN978-4-89732-454-8
C3010 ￥3500E
定価(本体3500円+税)

「求められているのは、人間が生きることの哀苦や残酷さを前に、なお現実と対峙していくことができる、人間としての自信だからである。……それらを支えてくれるのは、この世界に一步踏みだしていく勇気と、〈共同〉を通じて積み重ねられた〈役割〉や〈信頼〉や〈許し〉の経験、そして〈存在の連なり〉のなかで「担い手としての生」を生きる覚悟とによって形となった、〈自己存在〉に対する自分自身の〈信頼〉に他ならない」一本書、第十章「最終考察」より